「電子図書館レポート 2008」の発行にあたって

情報通信白書 2008 年版によると、メディアを評価する観点は、年代を問わず、テレビに対しては情報の「娯楽性」と「共有性」、新聞に対しては「正確性」と「親近性」、インターネットに対しては「多量性」や「速報性」に加えて「簡便性」と「有用性」にあるという調査結果が報告されています。また、広告経費という観点から見ると、インターネットは 2004 年にラジオを、2006 年に雑誌を抜き去り、2007 年にはテレビ、新聞に次ぐ第 3 位のメディアにまで成長しています。このような状況は、図書館のコンテンツでも同様であり、単行本や学会論文誌などの印刷メディアから、電子ジャーナルなどのディジタルメディアに移行しつつあります。

先端的な情報ネットワークー曼陀羅ネットワークーを基盤とした電子図書館として開設した NAIST 附属図書館は、①学内知的生産物のデータベース化、②24 時間図書館、③高度な情報検索機能、④リアルタイム利用、⑤複数利用者の同時閲覧、⑥授業アーカイブ機能、⑦メディアセンター機能、という 7 つの特色を、順次、実現してきました。各種雑誌がほとんど電子化されていなかった開設当初は、電子図書館研究開発室の業務は、学術雑誌や単行本の電子化と情報検索機能の充実など曼陀羅ネットによる情報サービスの提供が主体でした。しかし、最近では、大学院教育の充実・多様化・柔軟化を推進する上で重要となる動画を中心とした授業アーカイブの作成・編集・運用の業務、また NAIST テクニカルレポートや学位論文など本学が独自に創成した各種研究成果を NAIST 附属図書館だけでなく、国立情報学研究所やミシガン大学が公開するメタデータ収集サイトにリンクさせ、本学の研究成果の情報発信の広域化を推進する機関リポジトリなどの業務が NAIST 附属図書館の評価を高めています。

次世代情報社会を見据えた NAIST 電子図書館研究開発室は、七つの特色をさらに充実させるために、本年度から次の三つの機能の実現に挑戦しています。第一の挑戦は、MyLibrary 機能の本年度からの運用開始です。利用者一人一人の利用形態にあわせて、専用ページの構築、定期的に参照しているコンテンツや自分自身の検索履歴などの管理な

ど、電子図書館内に格納された資料とオンラインジャーナルの横断的かつ効率的な検索・管理システムを運用します。第二の挑戦は、電子司書機能の開発です。次年度以降の開発を予定していますが、前述のMyLibrary 内に格納される資料の参照履歴や検索履歴を用いて、電子図書館システムが利用者の興味に応じた資料を提示するなど、利用者専用の司書が居るかのようなバーチャル司書機能を実現して、より効果的な資料閲覧を可能にします。第三の挑戦は、知識集約センター機能の開発です。2010 年度以降に着手予定ですが、論文や資料、それらを閲覧した際に作成したメモ、プログラム、実験結果など利用者が教育・研究活動を通して生成した情報とその行動履歴から「知識・知恵」を体系化し管理・提示する機能を提供します。

本レポートは、このような次世代電子図書館機能の実現に向けた電子図書館研究開発室の挑戦活動をまとめたものです。法人化した国立大学は、限られた資源配分の中で高いパフォーマンスを達成することが求められていますが、NAIST にとっても情報基盤環境の特徴のある整備は必要不可欠です。七つの特色を開発した NAIST 電子図書館研究開発室は、先端的研究者が集結する NAIST において新しい知識・知恵を集約・体系化し、世界へ向けた知識発信基地となることに貢献するべく、三つの課題に挑戦します。この挑戦する姿勢を持続することこそが、NAIST 附属図書館における電子図書館研究開発室の使命であると信じ、わが国最高水準の電子図書館システムの構築に継続的に邁進することを強く願っています。

2008 年 9 月 17 日

理事・副学長（附属図書館長）

千　原　　國　宏